

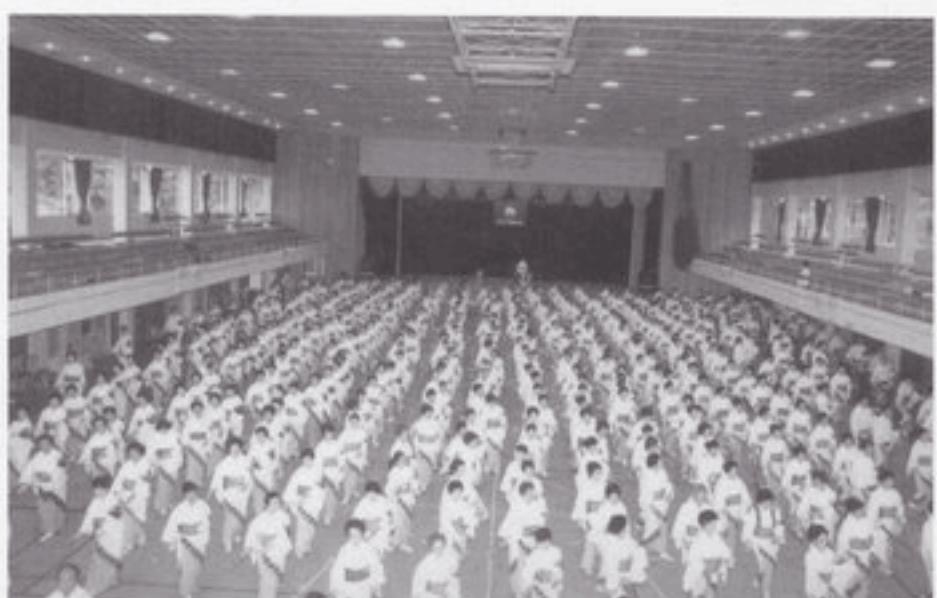
ビクター民踊・舞踊連盟  
五十年のアルバム



ハワイ研修旅行会（平成10年6月）



創立25周年記念ビクター民踊大会 東京厚生年金会館大ホール（昭和59年4月）



指導者合同研修会（平成元年6月）



創立40周年記念 ビクター民踊大会（平成11年4月）



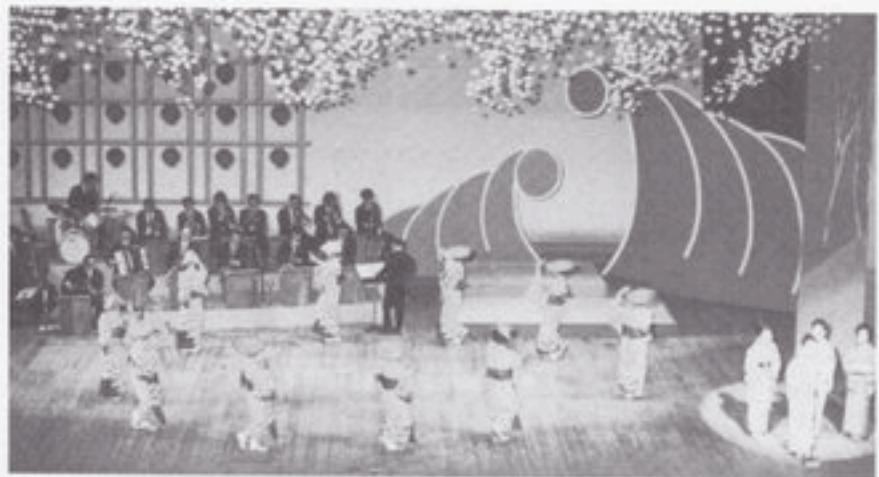
夏季研修旅行 民謡をたずねて「白鳥おどり」のふるさとへ（平成19年8月）



夏季研修旅行 民謡をたずねて「せり込み蝶六」のふるさとへ（平成20年8月）



新主任教授・教授認証式台東区民会館（平成20年4月）



第12回新春民踊大会（昭和46年4月）



第1回指導者研修会 千葉県茂原・藻原寺（昭和41年7月）



創立20周年記念 ピクター民踊大会（昭和54年4月）



昭和36年当時の民踊テキスト



第1回本部新年会 椿山荘（昭和56年1月）



新講師・新指導員認証式 五反田第一生命ホール（昭和55年4月）



日中国交正常化10周年記念親善公演（昭和57年5月）

# 連盟の基盤を築かれた先生がた



初代 鈴木正夫 先生  
(昭和36年9月28日歿)

宮城県のご出身で昭和を代表する民謡歌手。昭和十二年ビクター専属となり、当会発足にあたりビクター歌手会を代表され、副会長としてご参加頂きました。昭和二十年から三十年代には美声と力強い歌い方で聴衆を魅了し、中でも自作の「新相馬節」は大ヒットし、戦後を代表する民謡として今日まで歌い継がれています。



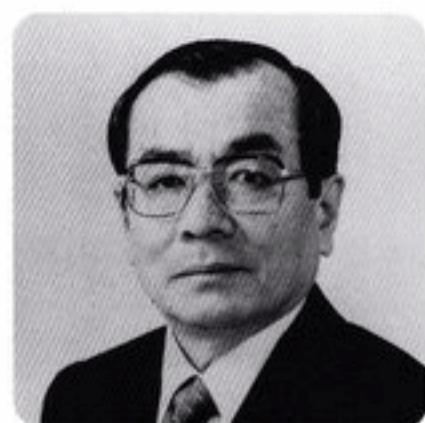
石川美峰 先生  
(昭和37年6月17日歿)

みんようの盛んな岩手県一関市の出身で、会創設に貢献された先生のお一人です。唄・踊・三味線と三拍子揃った方はそう多くはいらっしゃいませんが、美峰先生は正に三拍子揃った素晴らしい芸の持ち主でした。正統派みんようを常に追求されていました。先生の代表作の一つ「白浜音頭」は、現在でも千葉県白浜町で全国大会が開かれています。



初代 松若寿恵由 先生  
(昭和46年12月5日歿)

東京のご出身で、日本舞踊の市山流から昭和三十九年に松若流を起、これ、「黒田節」のような男踊りを得意とされました。大ヒット曲「お座敷小唄」に振付けをされたことが縁でビクター専属となりました。大変きつぶの良い姉御はだの方で、行動力にも溢れ、これからと言う時に、仙台の講習先で四十九歳の若さで急逝されました。



初代 落合 弘 先生  
(平成3年1月6日歿)



初代 中山義夫 先生  
(昭和61年11月17日歿)

お洒落でモダンな中山先生も会創立者の一人です。北海道のご出身で、まだレコードで民踊が踊られていない頃からビクターの専属の舞踊家としてご活躍され、日本各地の民踊を全国に紹介されました。また、アジア大会のマスゲームとして「ちやっこり節」を指導されました。昭和五十三年春の叙勲で、勲五等双光旭日章を受章されました。



初代 島田豊年 先生  
(昭和52年2月1日歿)

岐阜県のご出身で、昭和十年名古屋市大成小学校奉職の傍ら島田豊師門下となり児童舞踊の研鑽に努められました。戦後焦土の日本を憂え「踊って心に灯火を」を合言葉に日本民踊研究会を設立。ビクター専属となつて「宮津おどり」「郡上節」等を全国に紹介し、昭和四十六年社会教育の功により勲五等瑞宝章を受章されました。

旧ビクター民踊研究会創立の中心的存在としてご活躍頂いた先生です。手がけられた振付けも多く「帆柱起し音頭」「よされ大漁節」などの海の踊りが多くあります。先生の振付で特に有名な作品に「南部依み唄」があり、この曲は当会の基本曲もあり沢山の会員に愛され踊られています。豪快で人情味あふれたお人柄に人気がありました。